

学校からはじめよう！エコタウンづくり

えどがわエコセンターと共育・協働で環境学習を推進するモデル校

令和元年度
グリーンプラン推進校
報告書



認定NPO法人 共育・協働の環境づくり

えどがわエコセンター

1. グリーンプラン推進校について

グリーンプラン推進校とは、江戸川区の共育・協働の理念にもとづき、学校(園)における環境学習を推進するモデル校のことです。

えどがわエコセンターから各種情報の他、資材などの経費を提供し、学校における環境学習が充実するよう支援をしています。一年間環境学習に取り組んでいただいた後、活動内容をホームページや報告書などでPRしていきます。

グリーンプラン推進校の参加メリット

- 環境学習活動費として、各校「5万円」の助成が受けられます。
- えどがわエコセンター「環境学習プログラム」の中から、無料で「出前授業」を受けられます。
- えどがわエコセンターホームページで活動内容を紹介します。
- 他校の環境学習の活動状況等を知ることができます。
- 環境学習に関する様々な情報が得られます。

条 件

- 対象は江戸川区内の幼稚園・小学校・中学校です。
- 年度当初に、総合学習の年間計画や出前授業等について伺います。
- 2年連続の参加はできません。
- 最終報告の提出や報告会への参加をお願いします。
- えどがわエコセンターへの入会をお願いします。

2. えどがわエコセンターについて

えどがわエコセンターは、区民・学校・商店街・事業者・行政やNPO/NGOと連携し、『環境にやさしいまち・エコタウンえどがわ』を目指しています。地球温暖化防止やごみ減量の普及啓発、自然体験や調査活動など、様々な事業を展開しています。

えどがわエコセンターでは、区民や団体と一緒に色々な活動に取り組んでいます。

- 地球温暖化防止・・・低炭素社会づくりに関するイベント・講座など
- 資源循環・・・フードドライブ事業、おもちゃの病院など
- 自然環境保全・・・河川・海岸の保全、水辺環境調査、東なぎさクリーン作戦など
- 仲間づくり・・・すくすくスクール放課後環境教育、小中学校出前授業
おきがる環境講座、「エコカンパニーえどがわ」の推進など

3. 令和元年度グリーンプラン推進校

小学校（6校）

西一之江小学校 南葛西第三小学校 清新ふたば小学校
瑞江小学校 新堀小学校 北小岩小学校

中学校（4校）

二之江中学校 清新第一中学校 小岩第二中学校 小岩第三中学校

目 次

活 動 報 告

西一之江小学校	p. 3
南葛西第三小学校	p. 5
清新ふたば小学校	p. 7
瑞江小学校	p. 9
新堀小学校	p.11
北小岩小学校	p.13
二之江中学校	p.15
清新第一中学校	p.17
小岩第二中学校	p. 19
小岩第三中学校	p.21



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

※えどがわエコセンターでは、『SDGs（持続可能な開発目標）』の活用を推進しています。



学 校 名	西一之江小学校	対象学年と人数	全学年：693人
活 動 名	給食完食週間「ごみを減らそう」への取り組み 身近な自然に触れてみよう 大切にしよう		
指 導 者	学内指導者：校長 大辻隆夫 他 全教職員 学外支援者：えどがわエコセンターの方々 5年生への「身近な生物に触れてみよう」の学習の講師		

目標

- 給食の残菜を減らすことがごみを減らすことにつながることを知り、残菜を減らす努力をする。
- 「燃やすごみ」「燃やしてはいけないごみ」を区別し、再利用できるものはしていこうという気持ちをもって生活する。
- 身近な自然に目を向け、自然を大切にしていこうという気持ちを養う。

成果

- 給食委員会の児童の提案で、「給食完食週間」を1週間設け、全校で取り組んだ。この1週間で残菜が減り、ごみが減ることで環境へも影響があることを全児童が理解できた。また、この週間を機に完食してごみを減らそうという意識が芽生えた。
- エコ委員会の児童と用務主事を中心にごみの仕分けを徹底した。段ボールの細かいものはテープなどをきれいに取り外して再生紙になることを理解し、全校で協力することができた。
- 5年生では、身近な自然に対して異なる視点を外部の講師から教えていただき、自然の不思議さや循環の視点について学ぶことができた。
- 4年生は近隣の公園に出かけ、地域の方々とは花の苗植えを行い、地域の自然へも目を向けた活動を行った。
- 3年生では、小松菜農家を訪ねたり、小松菜農家の方を招いて小松菜の種をまき、育て方の指導を受けたりした。近隣に広がる農家にも目を向け、活動を通して自然の大切さに気付いた。
- 理科委員会の児童を中心に、カブトムシの世話をし、カブトムシ小屋からでは糞や腐葉土を肥料として学年の花壇に入れた。糞や腐葉土は捨てるものではなく野菜や花を育てるための大切な肥料となること、自然の様々な事象は循環していることを活動を通して学ぶことができた。

感想・課題等

- 児童自身がちょっとした頑張りによって残菜が減り、エコにつながるということに気付いた。児童全員が協力できて、目に見えた成果があったのでよかった。
- 学校内の自然から地域の自然環境へも目が向くようになり、大切にしていこうという気持ちが育った。
- 子供まつりのように段ボールを多く使った後の後始末の仕方を丁寧に指導した結果、日常的に後始末がきちんとできるようになったのが大きな成果であった。これからも、学校行事などをきっかけとして、指導していきたい。
- 5年生の「身近な生物に触れてみよう」の学習では本来は1学期の理科の「水生生物」の学習と合わせて行いたかったのだが、講師との日程が合わず10月になってしまった。日程の調整面で課題が残った。



5年生は10月21日(月)にえどがわエコセンターの方をお招きし、校庭の植物や水生生物について学習した。普段目にしていても気が付かなかった自然の面白さや不思議さに触れることができた。



掃除の時には、5、6年生のエコ委員会の児童がごみを収集する場所に立ち、きちんと仕分けしてあるか確認しながらごみ捨てをした。再生できる紙類は別にするなどの活動をする事ができた。低学年の児童がごみの捨て方に迷っているとエコ委員会の児童がパッと手を貸し手伝う姿が見られた。また、教員や用務主事から言われるのではなく児童同士で声を掛け合うことで、さらにごみの分別への意識が高まったといえる。



4年生は年間2回、春と秋に近隣の松江公園で江戸川区役所の緑化推進の係の方や地域の方々とリンゴの木の花粉付けや花壇の苗植えを行った。リンゴの木の実はなかなか実ることができなかったが、児童は「自分たちで世話をしてきた木」、そして「花壇の花々」として自然を大切にしようと気持ちを育ててきた。

グリーンプラン推進校活動報告書



学 校 名	南葛西第三小学校	対象学年と人数	2年生：74名 3年生：89名 4年生：103名
活 動 名	○葛西臨海公園鳥類園における自然観察 ○周年行事に向けて花の種をまこう〈PTAとの連携行事〉(希望者) 32名 ○緑のボランティア～花の苗を植えよう～(3年生 89名・4年生 103)		
指 導 者	学内指導者： 今泉菜穂子、吉川功一、鮎瀬鈴代、松丸早織 学外支援者： 東京農業大学付属植物園： 伊藤健先生 進化生物研究所研究員： 梅室英夫先生 えどがわエコセンター： 吉野先生、中島先生、望月先生		

目標

- 自分の住んでいる身近な環境を知ること、地域に愛着をもち自然を大切にしようとする心を育てる。
- 花の種や苗を植えたり、学校の樹木を調べたり、名札を付けたりする作業をとおして、暮らしている町や学校に対して愛着をもたせる。
- 開校 30 周年に向けて、花の種を植えることで母校への愛校心を育てる。

成果

- 葛西臨海公園鳥類園を散策する中で、多様な樹木や生き物の名前を知り、身近な地域に豊かな自然があることに気付くことができた。
- 葛西臨海公園駅ロータリー花壇に自分が花を植えたという誇りをもたせることができた。
- 開校 30 周年に向けて、植物を植えることで植物への愛着と周年行事に対する意識の向上に役立った。

感想・課題等

- 葛西臨海公園見学では、3.4 時間目の 2 時間続きの見学であったが、生物観察の内容を多くしすぎたため、時間が足りなくなりました。もう少し内容を精選するべきであった。
- 葛西臨海公園見学を終えて、子供たちから樹木や生き物の名前を知ることができて面白かった。楽しかったとの感想が挙がっていた。今も図鑑を広げて「先生、そういえばこのカニ、授業で教えてもらったカニだね。」などの声を聞くことがある。
- 植物の種や苗を植える活動は、自然に対する愛着を育てるうえで有効であった。さらに今年度は開校 30 周年ということで、愛校心の向上に役立つことができた。
- 学校の樹木調べでは、植栽図が見当たらず、難儀した。しかし、専門家のアドバイスを得つつ、子供たちと樹木を調べ、その樹木札を作る活動は植物への親しみと学校への愛着を育てることに有効だと考える。



葛西臨海公園鳥類園における自然観察
2年生



（コスモスの種を植える活動）
- 7月 - PTA活動との連携

（緑のボランティア～臨海公園駅に花の苗を植える活動～ 3・4年生 - 6月・11月 - ）





学校名	清新ふたば小学校	対象学年と人数	4年：84名
活動名	大切にしようみんなの町を！！ ミッション葛西海浜公園を守れ		
指導者	学内指導者：奥澤紗綾香、金谷駿祐、栗木祐亮		

目標

- 葛西海浜公園を見つめることをきっかけとして身近な環境問題に目を向ける
- 環境を守るために自分たちができることを考えて生活に活かす

成果

- 児童に付けさせたい力を明確にし、思いや願いを尊重しながら単元づくりや授業をすることを心掛けた。葛西海浜公園へフィールドワークに出かけたり、働く人の話を聞いたりすることで児童の思いや願いが生まれやすかった。
- 葛西海浜公園での体験を通して葛西海浜公園の素晴らしさ（鳥や植物、貝、魚などの生物の宝庫）を知るとともに環境問題についても知ることができた。
- この葛西海浜公園での体験から「葛西海浜公園を知ろう」「葛西海浜公園を守ろう」と学習をスムーズに進めることができた。

葛西海浜公園で、カニやクラゲ、魚、鳥などたくさんの生き物を観察しました。また、海岸に落ちているごみを発見し、拾うことができました。





学校名	瑞江小学校	対象学年と人数	全学年：482人
活動名	瑞小の環境学習		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：えどがわエコセンター 大和地 弘一先生（環境学習）		

目標

- 空き缶、プルタブ、エコキャップの回収活動を通して、児童がリサイクルに対する意識をもつ。
- ゴーヤを育て、緑のカーテンを作ったり、環境ポスターを作ったりすることで、節電に対する意識を高める。
- 観察池の掃除や観察などを通して、身近な自然と触れあい、環境を大切にできる態度を高める。
- 総合の授業で「地球の環境にやさしい生活」について学び、日々の生活に生かす。

成果

- 毎週金曜日の朝、校門の前で回収活動を行い、空き缶やプルタブ、エコキャップが多く集まることで興味をもちながら、リサイクルに対する意識が高まってきた。
- 飼育委員会で、毎日観察池の掃除を行い、池の生き物と触れ合った。6月には、プールのヤゴ救出作戦を行い、救出したヤゴを観察池に放した。委員会の時間には、観察池の水質調査（ph、CODの測定）を行い、観察池の水質保全に努めた。
- リサイクル堆肥を使って、野菜作りを行った。1学期には、トマト、キュウリ、ピーマン、ラディッシュ、ナス、ジャガイモなどを収穫した。児童は、苗植え、水やり、草取り、収穫などの一連の栽培活動を通して野菜の成長に興味をもち、愛情をもって育てることができた。
- えどがわエコセンターの出前授業をした。10月に仲よし学級（3～6年）で実施した。

感想・課題等

- さまざまなエコ活動を通して、児童のリサイクルや自然に対する関心が高まってきた。
- 興味をもって生き物の飼育や観察をする児童の姿が多くなった。高木先生と一緒に池の生物調査を行い、生息している生き物の名前を教えていただくことで、環境や生き物に対する児童の興味関心が高まった。このような活動を今後も続けていきたい。
- リサイクル堆肥を使って草花を育てることにより、植物を育てることの喜びややさしい心を培うことができた。
- 学外支援者に学校に来て授業をしていただくことで、児童はもちろん、教師も大変勉強になった。今後も、外部の方と連携して環境学習を進めていきたい。



エコキャップ、プルタブ、空き缶の
回収活動

観察池の調査



ヤゴ救出作戦



サケの飼育



学校名	新堀小学校	対象学年と人数	1年：60名 環境委員会 19名 5年：76名
活動名	新堀小グリーンプラン		
指導者	学内指導者：5年担任、1年担任 環境委員担当 主事 学外支援者：小林國雄（さつきのさし芽）、江戸川エコセンター（エコについて学ぶ、自然をみつけよう）、笠井雅世（花植え活動）		

目標

- さつきのさし芽体験を通し、生命の大切さを学ぶ
- 新堀小学校の環境をよくするために、何ができるか考え、行動に移す児童を育てる
- 身の回りにある自然と触れ、自然の素晴らしさを感じ、大切に作る心を育てる
- 身近な生き物を観察することで、命を大切にしようとする気持ちを育む

成果

- さつきのさし芽教室（5年）
講師の先生から、30年前に、校庭にあるさつきのさし芽から育ったさつきを見せていただき、命を繋いでいくとはどういうことかを学んだ。自分たちが図工で創った鉢に、さつきのさし芽をし、命を大切に育てていこうという気持ちを育むことができた。
- 新堀小学校の環境をよくしていこう（環境委員会）
環境委員会では、新堀小学校の環境改善のため、エコセンターから講師を招いてエコについて学んだ。南極での生活について学ぶことで、エネルギーを大切にに使わないといけないことを学ぶことができた。また、新堀小学校の環境をよくするために、花植え活動にも取り組んだ。心を安らげる場所となるよう、みんなで協力して花植え活動を行った。
- 秋探し（1年）
学校の近くにある公園で、秋を探す活動を行った。エコセンターからの講師にも同行してもらい、様々な秋を探すことができた。初めて見る大きな松ぼっくりやドングリの種類に驚き、身近にある自然に親しむことができた。
- 観察池作成
5年生が稲を育てていた田んぼに、様々な生き物を発見した子供たち。秋に水を抜いてしまうと死んでしまうので、となりに観察池をつくり、そこで育てることにした。休み時間にたくさんの子が、泥をすくったり、生き物を探して移動したりして、無事に観察池を完成することができた。

感想・課題等

- さつきのさし芽教室、環境委員会、秋探しでは、講師を招いて学習を行った。本物を知っている方のお話を聞くことで、子どもたちの学びは深いものになると改めて感じる事ができた。
- 環境委員会の活動は、月1回程度と決まっていたので、学んだことを実際に生かすために何ができるかを考えさせたり、実践させたりすることができなかつた。もっとこうしたいという子どもたちの考えを引き出し、実現させていくことが、今後の課題である。

○さつきのさし芽体験



さつきのさし芽を体験しました。命を繋いで、さつきをたくさん育てていきます。

新堀小学校の環境をよくするために、花を植えました。

○新堀小学校の環境をよくしていこう



○秋探し



いつも遊んでいる公園で、たくさんの秋を探せました。いろいろな植物の名前も知ることができました。

○観察池作成



田んぼの生き物を救出して、新たに観察池をつくりました。

これから、ここで生き物を観察していきます。



学校名	北小岩小学校	対象学年と人数	5年：69人 全学年
活動名	北小米で環境を考えよう(5年総合)・人権の花活動(特別活動)		
指導者	学内指導者：中村美鈴、小林哲(5年総合) 全教職員(特別活動) 学外支援者：JA鶴岡江戸川事務所様、JA鶴岡様、イノシシ倶楽部様(北小米) 人権擁護委員会様(人権の花)		

目標

- 学校田を活用し、米作りの難しさや達成感を実感する体験を通して、自然への興味関心をもたせる
- 田んぼと自然環境の関わりに興味をもち、自ら課題を設定し、課題解決をする力を身に付ける
- 異学年交流の活動の一環として協力して花を育てることで、学校全体で人権への意識を高めていけるようにする

成果

- 米作りから食べるところまでの一連の米作りの作業に実際に関わることで、米作りは多くの手間がかかっていることを知り、愛着や責任感をもって自らすすんで米の栽培を行うことができた。
- ゲストティーチャーの方たちから、米作りの実際の作業や自然環境についての現状を聞くことで、実感を伴いながら自らの課題をもつことができた。また、地球を存続させるために持続可能な社会をつくるために、自分たちにできることについて話し合うことができた。
- たてわり班活動で、6年生を中心にグループごとの花を育てる活動において、話し合いや水やり当番などで異学年での関わりを深めることができた。

感想・課題等

- 米や花を育てる過程も、グリーンプラン推進校として活動できたことで、自然と人との関わりを深める学習が充分な環境の中で行うことができた。
米作りは今年度から初めて行ったため、土をはじめ道具類をそろえる必要があった。
人権の花活動は、たてわり班活動で行いたかったため、6個しか配給されないプランターを24個そろえる必要があった。
- 1年間の活動で多くの学校が参加しやすいこともあると思うが、継続していきたい内容の活動の場合、2年間などの単位で参加できるとさらに充実した計画・まとめができるのではないかと感じた。

① 田んぼの様子



② 人権の花活動の様子



③JA 鶴岡様の米作りの出前授業



④イノシシ倶楽部様の環境に関する出前授業





学校名	二之江中学校	対象学年と人数	全学年：561名
活動名	環境・栽培・美化活動		
指導者	学内指導者：環境科学部（荒川篤彦、野々川麻樹子） 特別支援学級（野澤恵美、橋本清美、小野澤宗也、森一誠） 技術科（吉見啓佑） 生徒会（横山暢勇、今田麻里子、星祐太郎）		

目標

- 学校花壇、農地の整備、植物の栽培学習をとおして自然や環境に関心を持ち、生命尊重や自然愛護の精神を育む
- 校内美化活動に取り組み、ボランティアマインドを醸成する

成果

- 特別支援学級を中心とした学校花壇、農地の整備を行うことができた。技術科教員と連携したことでより栽培についての専門知識を得るとともに季節に応じた植物がどのように育つのかを体感することができた。自然愛護の精神を育むことができた。
- 環境科学部を中心とした花壇整備、環境についての研究を推進することができた。
ゴミ減量プロジェクトでサイクルについての調べ学習をして掲示物を作成した。
- 全校生徒対象の「ぼくらのクリーニング計画」を生徒会が主催して、年間3回実施することができた。毎回、100名以上の参加者があり、ボランティアマインドの醸成がなされた。

感想・課題等

特別支援学級を中心とした学校花壇、農地の整備
 技術科教員の指導により、本格的な栽培指導が行われた。日常の学びを実際に体感して確かめる経験ができています。季節に応じて育てた野菜などは、調理実習にも活用している。食育の観点からも有意義な活動であった。

- 環境科学部を中心とした花壇整備、環境についての研究
 校内で花を育てて環境美化に努めている。現在植えているチューリップは、卒業式や入学式でも活用される。リサイクルについての調べ学習の成果は、校内に掲示して全校生徒の意識向上の一助となっている。

- 生徒会主催「ぼくらのクリーニング計画」
 各学期に1回（3日間）、年間3回のボランティア清掃を生徒会が主催して行っている。朝7時30分からの活動であるが、毎回100名以上の生徒がボランティアとして参加している。教職員も自主的に参加しており、回数を重ねる毎に参加者が増加している。環境美化やボランティア精神の向上が感じられる。

1 特別支援学級を中心とした学校花壇、農地の整備



季節に応じた野菜づくり 栽培に適した土づくりから始まり畝立ても本格的に行いました。

2 環境科学部を中心とした花壇整備、環境についての研究



チューリップは卒業式 入学式で使用

ごみ減量プロジェクトIX
リサイクルマーク
 “知っていますか？”
 二之江中学校 1 学年 167 名の生徒に調査をしました

リサイクルマーク	割合	リサイクルマーク	割合
資源物マーク	96%	資源物マーク	95%
資源物マーク	98%	資源物マーク	24%
資源物マーク	72%	資源物マーク	43%
資源物マーク	98%	資源物マーク	97%
資源物マーク	96%	資源物マーク	13%

一般的なリサイクルマークは、みんなよく知っていました。

よく目にするマークでも、その内容をよく理解できていないものもあるようです。このほかにも様々なマークもあるので、見たときには調べ、しっかり覚えておきたいと思いました。

ごみの循環を調べてみました。

自然界のエネルギー循環にも類似があり、ごみを循環させ再利用することの重要性を学びました。ごみの選別すること、再利用すること、物を大事に使い長い期間使用することを目指していきたいと思えます。

二之江中学校 環境科学部

リサイクルについての調べ学習

3 生徒会主催「ぼくらのクリーニング計画」





学校名	清新第一中学校 (特別支援学級)	対象学年と人数	1年生～3年生：24名
活動名	身近で手軽な環境学習 「自然の力と知恵で、エネルギー消費とCO ₂ 排出削減」		
指導者	学内指導者：村上玲子 学外支援者：倉内皓子（風呂敷使い方指導）		

目標

- (1) 堆肥作り (2) 地産地消 (3) 風呂敷活用 (4) フードロス削減

成果

(1) 堆肥作り

学校菜園において、以前は枯れ草などを45Lゴミ袋で約30袋を可燃ゴミとして出していたが、畑の一部で堆肥作りを行うことで、合計1,350Lの可燃ゴミを削減した。焼却場まで運搬のエネルギーや、生木などの水分を多く含む可燃ゴミ燃焼に多くのエネルギー使用を回避し、CO₂を排出量削減できた。

(2) 地産地消

畑での植物生育によるCO₂吸収、また作った作物を調理することにより運搬燃料の削減とCO₂排出量の削減ができた。

(3) 風呂敷活用

講師を招いて風呂敷の簡単な結び方、簡単なほどこき方を学習した。家庭で買い物には風呂敷(または買い物袋)持参を徹底して店での買い物袋購入を回避できた。資源消費削減と燃焼によるCO₂削減ができた。

(4) フードロス削減・・・給食の完食取り組み

① ゆっくり食べられる時間確保のために、手早く準備することを徹底。

② 「おかわりルール」の徹底

「食べられない場合は食べる前に減らす。」「おかわり希望者は、完食したら『おかわり希望者』を聞いて等分する。」

このルール徹底により、残菜率は約1%となった。

感想・課題等

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校活動に参加するに当たり、どのような内容で取り組むかをいろいろ考えた。その中で人力発電にチャレンジしたかったが、限られた予算内で実施することの困難さと環境学習として持続させられるか検討した結果、身近で手軽な環境学習の実践に行き着いた。

本校で取り組んだ内容は、「堆肥作り」「地産地消」「風呂敷活用」「フードロス削減」で一切特別な内容はない。先人が当たり前やってきたことを、意識して取り組んだに過ぎない。しかし、自然界で生きる生物の一員として、物質循環のサイクルに逆らうことなく、先人の知恵や工夫の再現は有効であった。また、日本の「たたむ」「結ぶ」風呂敷文化は、場所も取らず1枚で環境から防災に至るまで活用範囲が広い。家庭では消えつつある先人の知恵や文化の学習、日々の暮らしを意識させる取り組み、そしてこれから自分たちでできる工夫の重要性を意識づけていくことが、学校現場で果たすべき役割だと感じた。引き続き取り組んでいきたい。

(1) 堆肥作り



5/9 畑整備
抜いた植物は、ゴミにせず畑の端にまとめました。

7/18 草ぬき
サツマイモを植えた後の草ぬき。
抜いた草は畑の端に。



12/11 春から抜いた植物
総量約 1300L を畑の生物が分解。
そこからジャガイモが！

(2) 地産地消

5/31 サツマイモ苗植え
サツマイモの苗を丁寧に植えました。



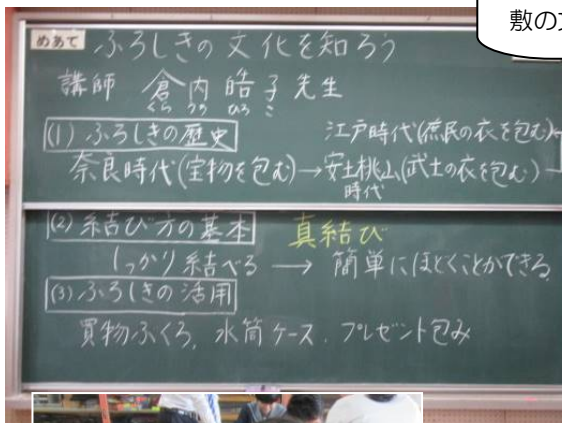
12/11 サツマイモ収穫
40kg の穫でした！



12/13 サツマイモ調理
手作り味噌で、お味噌汁。栗きんとんとスイートポテトも作りました。

(3) 風呂敷活用

10/15 講師を招いて風呂敷講座
座倉内皓子さんをお招きして風呂敷の文化を学びました。



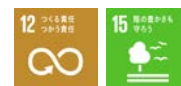
真結び
結べばほどけず、
ほどくときは簡単！



学びあい
3年生が、後輩に教えて何度も練習しました。

いつも使います
授業でも買い物にも、風呂敷を使っています。





学校名	小岩第二中学校	対象学年と人数	生徒会が中心となり 全校生徒 507 名
活動名	環境教育とボランティア活動		
指導者	学内指導者・外支援者：校長、生徒会担当職員、用務主事		

目標

- 「卒業生の使わなくなった上履きをアフリカへ」の取組や環境教育を通して、ものを大切にする意識を育み、ボランティア意識を高める
- 「ペットボトルキャップ回収運動」や環境教育を通して、発展途上国へのワクチン寄贈や、3R の意識を高める
- ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」(街頭募金)を通して、環境教育に対する考えを高める
- 栽培活動により、緑化や環境保全、そして老人ホームへの花の寄贈を通して、老人に対する敬愛の念を育む

成果

- 環境教育を通して、世界には靴を履きたくても履けない子どもたちが多くいること、そして、靴のない暮らしは、衛生上多くの問題を抱え、破傷風などのウィルスへの感染症の危険にさらされ、多くの子どもの命が失われている。また、発展途上国の子どもたちが治療薬やワクチンがなく、多く亡くなっている。そのために私たちができることとして、募金活動やペットボトルキャップ運動に参加する態度を育むことができた。また、高齢者との交流を通して、高齢者に敬愛する態度を育むことができた。

感想・課題等

- 履かなくなった「卒業生の上履きをアフリカへ」の活動では、アフリカの子どもたちに日本の子どもたちのことを知ってもらうために、英語で書いた「メッセージカード」や自分たちで折った「折り鶴」を上履き一足ずつに入れて送った。自分たちが粗末に使い、すぐに捨ててしまうような靴でも、世界には、必要としている子どもたちが多くいることを知った。私たちが普段から物を、粗末に使用していることに反省し、大切に使うという気持ちが育まれた。課題として、「使わなくなった靴」を発展途上国へ送る、ルートや組織がなかなか見つからない。江戸川区等で組織を作っただけならば、他の中学校に呼びかけ、アフリカやカンボジアなどの靴を履けない国々へ送ってきたい。
- ペットボトルキャップの分別回収について意識を高めるとともに、発展途上国の子どもたちのためにワクチンを送ることができることを再確認し、エコ活動に意欲を高めた。課題として、エコキャップを運営機関に送るのに、多額のお金がかかるのはいかなるものなのでしょうか。送料について、江戸川区の機関で負担をお願いしたい。
- ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」の活動を通して、発展途上国において、6100 万人が学校へ通えず 4 人に 1 人が栄養不足の子供たちがいることを知り、12 月 14 日(土)に小岩駅で街頭募金を行った。町の人たちに募金をしていただき、町の人たちのあたたかい心に触れ、募金活動により、発展途上国の子どもたちを助けたいという気持ちを育むことができた。
- 栽培活動により、緑化や環境保全、そして老人ホームへの花の寄贈を通して、緑化運動だけでなく高齢者に対する敬愛の気持ちを育むことができた。

○「卒業生の使わなくなった上履きをアフリカへ」



- ・上履きを洗濯し、靴にひもを通して、一足ずつ「メッセージカード」と「折り鶴」を入れました。箱に梱包し、送りました。

○ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」(街頭募金)を通して



- ・本校のボランティアジャンパーを着て、小岩駅周辺で募金活動を行いました。町の人たちのあたたかい気持ちを受け取ることができました。



小岩二中

「ボランティアキャラクター」

(豆に働く ビーンズキャラクター)



○栽培活動により、緑化や環境保全、そして老人ホームへの花の寄贈

- ・生徒会が中心となり、園芸ポットに球根を植えて、春、花が咲くころ、老人ホームへ寄贈します。





学校名	小岩第三中学校	対象学年と人数	全学年
活動名	地球を守る		
指導者	学内指導者：武田 信樹、永野 美智代		

目標 ～地球を守るために私たちができることは何かを考え、実際に行動していく～

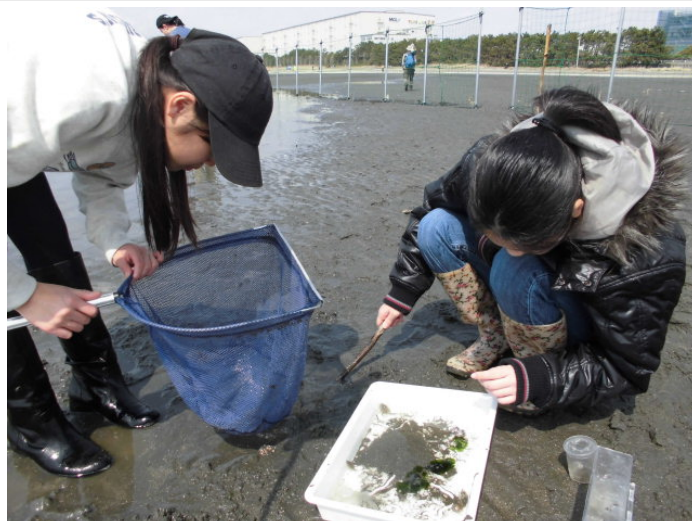
- 学芸発表会で、プラスチック問題を全校生徒の前でおこない、関心をもってもらう
- 環境フェアに参加し、また、出前授業で環境への意識を高める
- 自然観察会を行い、干潟の生き物とふれあい、自然と共生する心を育てる
- 屋上菜園で育てた野菜を用いて、エコクッキングをおこなう

成果

- 江戸川区のプラスチック中間処理施設を見学し、自分たちの出したプラスチックゴミがどのように再生されるのか流れを知ることができた。また、江戸川土手の清掃活動を通して、マイクロプラスチックの問題まで深く考える事ができた。最終的には全校生徒の前で発表し、共感を得た。
- 環境フェアで作成した竹の花瓶や、「リサイクル木材で本棚をつくろう」の出前授業で作った本棚を学芸発表会で展示し、環境への意識を高める事ができた。
- 干潟で地球の美しさ、生き物の素晴らしさを知ることができた。
- 地消地産を実践することができた。

感想・課題等

- 学芸発表会で、全校生徒の前でプラスチック問題を発表したことは、とても大きな意義があった。プラスチックを分別し、リサイクルすることの大切さ、不法投棄したときの生態系への影響を生徒に訴えることができた。これは生物環境部の部員が、劇仕立てで発表をしたため、全校生徒が楽しみながら発表を聞くことが出来たからである。実際にプラスチック中間処理施設を見学し、プラスチックの仕分けを経験し、また、江戸川土手のプラスチックゴミ拾いをした生徒からの発表は実体験に基づいた力のある発表だった。実際、発表後、何人もの生徒から「海の中で、プラスチックゴミの数が魚の数より多くなるって本当ですか？」などといった質問があった。
- 環境フェアには、毎年、生物環境部の生徒を参加させている。燃料電池を使ったおもちゃを動かしたり、間伐材から自分で箸を作らせてもらったりして、環境問題に目を向けることができる。「リサイクル木材で本棚を作ろう」の出前授業では、廃材利用に関して詳しく教えてもらうことができた。今年度は、作った作品を学芸発表会に展示したことにより、全生徒に環境フェアを疑似体験してもらえた。
- 千葉県の上総三番瀬で毎年、自然観察会を部活で行っている。カレイやボラの稚魚を捕獲したりして、干潟を楽しみ、干潟が魚たちの稚魚が育つ大切な場所であると気づくことが出来たと思う。
- 屋上でニンニク、ジャガイモ、ナス、トマト、冬瓜、スイカなどを育て、カレーパーティをした。カレーは油が多いので、水を汚す原因になるので、鍋を洗う前に新聞紙で拭き取り、洗剤をあまり使わなくても良いように工夫した。生活排水にも注意を配っていけるように今後も続けていきたい。



三番瀬 自然観察会



屋上菜園でナスの収穫



江戸川の清掃活



発行：認定特定非営利活動法人えどがわエコセンター

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3 階

TEL: 03-5659-1651 FAX: 03-5659-1677

URL: <http://www.edogawa-ecocenter.jp/>
